

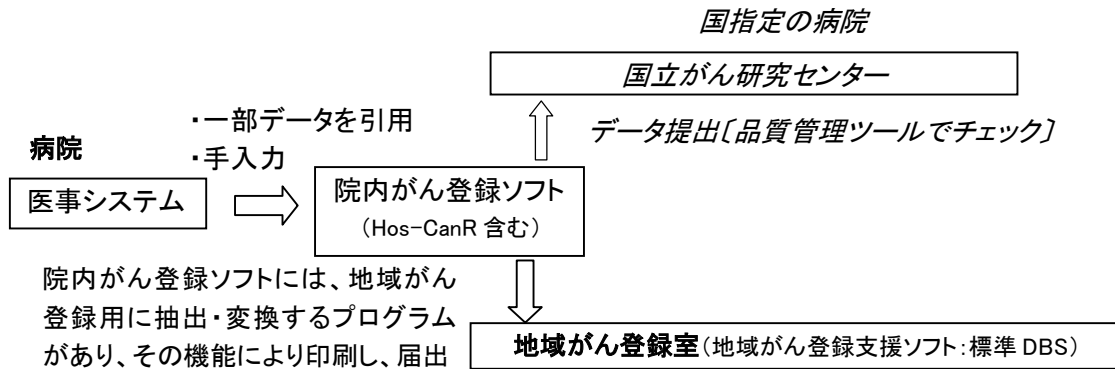
【参考資料】

がん診療連携病院にかかる 地域がん登録届出票の電子データによる受理への対応

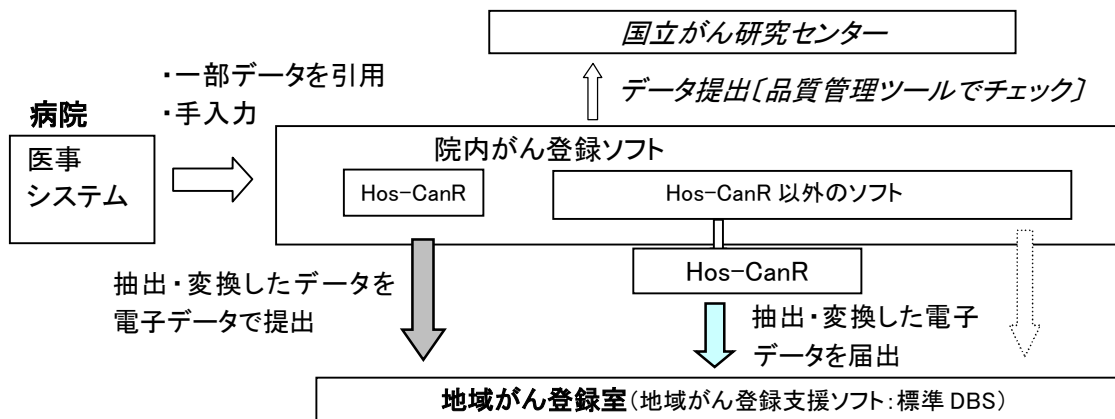
【H24.12.21_がん診療連携協議会がん登録部会説明資料】

1 電子データ受理への当面の対応(イメージ図)

【現行の流れ】



【電子データ受理へのイメージ図】



* 変換とは、院内がん登録標準項目から、地域がん登録用項目(進展度など数項目)への読替えをいう。

2 電子データ届出の当面の対応(案)

(1) 提出の電子データの書式

標準 DBS にインポートできる書式等を満たしていれば、電子データの受理は可能であるが、当面は、A:院内がん登録ソフトである Hos-CanR で作成された電子データ、又はB:国立がん研究センターの品質管理ツールによるチェックをクリアできる水準レベルで、かつ、Hos-CanR により地域がん登録用に変換した電子データに限定する。

(2) 対象医療機関

- ①がん診療連携拠点病院(国指定)で、Hos-CanRにより地域がん登録用に変換した電子データを提出できる病院
- ②院内がん登録実施病院で、Hos-CanR を使用して登録している病院

(3) 円滑な実施に向けた連携

- ①がん登録室と各病院と事前に調整を経て実施する。
(例えば、試験的に紙と電子データを併せて提出してもらう など)
- ②セキュリティの確保に努める。

対象病院/データ等	説明
(1)国指定のがん診療連携拠点病院で、 ①院内がん登録を Hos-CanR で実施 ②Hos-CanR により地域がん登録用に変換した電子データを提出できる場合	①国指定の拠点病院において、国立がん研究センター提出時には、品質管理(データチェック)を経ている。 ②Hos-CanR にある品質管理機能が優れている。
(2)院内がん登録実施病院で、院内がん登録を Hos-CanR で実施している場合	③院内がん登録実施にあたっては、届出情報(コーディングなど)の正確性が認められる。

【参考】

1 地域がん登録室の作業手順

- (1) 電子データ(CSV ファイル)を受理
- (2) インポートまでの前処理
 - ①電子データに受理日、シリアル番号を追加
 - ②電子データを分割(例えば、100 件毎に) * 100 件は、チェックなど効率的な作業単位
 - ③定義ファイルの作成(初回のみ)
- (3)インポート
 - ①インポート後のエラーチェック
 - ・エラー出現率は 5%程度
 - ・主なエラーは、氏名の外字、住所コード(国(総務省)の指定以外の記載ならエラーとなる)など
 - ②エラー修正後、完全インポート(エラー修正しないと、入力が進まない)
- (4) 差込み印刷用の届出票雛形(様式)でプリントアウト
- (5) プリントアウトした届出票のチェック(コーディングほか)
 - * 初期入力が省力化され、これ以降は、従来からの作業
- (6) 突合(チェック・修正) → ID転送 → 個人照合 → チェック・確定 → データ登録

【作業のイメージ図】

